

第 1, 2 回地域福祉推進委員会 委員から出された意見（主なもの）分野別

《地域福祉計画》

- ・（重点取組 1 の図）周りの協力団体、団体の力不足をテコ入れしないと、図の中心のような形はできないと思う。
- ・（社会福祉（推進）計画）資料を見て活動の相関性が分からない。戦略マップのように、これが変わると何が変わって何が解決される、というようなものが見えづらい。
- ・重点取組 1 の図や福祉計画が住民に周知徹底されていない。知らないから自分がどの立ち位置なのか分からないと思う。
- ・公民館の位置付けをしっかりと検討し明示してほしい。

《まちづくり》

- ・自治会が若い人が入りにくい組織になっていると思う。若い人にしてもらって、経験者がサポートすればいい。
- ・アパートやマンションに住んでいる人は地域との関わりが少なく非常に希薄な関係になっていることが考えられる。こういった方々を巻き込まないと地域福祉の向上につながらない。
- ・在宅の方や一人暮らしの方などが気軽に参加できるような地域の組織を作ってもらいたい。
- ・町内会に入らない場合のリスク面（災害時など）を市民に周知した方がよいのでは。
- ・公民館に、誰でも来られる敷居の低い役割をしていただきたい。

《地域食堂》

- ・地域食堂が新たな居場所、活躍の場として機能しつつある。学校との連携、協力企業との連携など、子どもの食を通じてネットワークが広がる傾向がある。

《地域福祉》

- ・ボランティアや福祉関係の人は、個人を尊重するあまり問題のある家庭、複雑化した世帯に踏み込めない。そのフォローをしてほしい。
- ・多職種の意見交換の場を設ける。他の団体がどのような活動をしているかまず知ってもらおう。
- ・地域の取り組みについていい事例集をつくってほしい。

《担い手》

- ・子どもの貧困、不登校、いじめなど子どもに関わる問題は学校との連携が重要になってくるが、スクールソーシャルワーカーは福祉と教育の橋をかけてくれる存在。機能がう

まく発揮できる体制を作る必要がある。

- ・民生委員など、受け手としての経験不足、スキル不足。人づくりが課題。
- ・コーディネーターに公務員の退職者はどうか。
- ・他の事例では専門職（行政、社協、介護職など）が多い。

《ボランティア》

- ・福祉はボランティアで支えるしかない。
- ・福祉をボランティア精神で支えるのは限界があるのでは。ある程度の報酬で動く人の養成を考えていかなければいけない。
- ・有償ボランティアとして手伝っていただく方に実費弁償分のお金を支給する形はあってもいいと思う。
- ・ボランティアが気持ちよく活動するためには、それを調整する役割の方が必要になってくる。

《つながりサポーター》

- ・つながりサポーターと、愛の訪問協力員・となり組福祉員との役割の違いを整理してほしい。
- ・つながりサポーターが機能して地区の相談窓口の情報が入ってきて、住民レベルでは難しいとなったときに、相談センター・社協・人権福祉センターなどに情報が入る形が大事。
- ・つながりサポーターの専門職バージョンを作ってみては。住民目線は忘れないで。

《愛の訪問協力員/となり組福祉員》

- ・愛の訪問協力員やとなり組福祉員の役割を見直す、あるいはしっかりと説明して納得してもらうことをやっていかないといけないと思う。
- ・以前区長をしたが、となり組などの福祉の役割や必要性がよく分からず、役を受けてくれる役員もなく負担にしか感じなかった。

《アウトリーチ支援》

- ・孤立の問題が進んでいる。その家庭を支援するため、どう発見するかが課題。発見するためにはアウトリーチが重要。
- ・つなぐ人が家庭の問題を把握したら、どこかに通報してアウトリーチにつなげることも重要。
- ・家庭に問題のある子どもや避難行動要支援者など、課題を抱えている方をこれまで以上にどうやって地域で発見し支援につなげていくかが課題。

《相談支援》

- ・（地域福祉相談センター）既存サービスの紹介に終わっているのでは。
- ・地域福祉相談センターの設置場所を次期計画では改めて検討してほしい。
- ・相談の場づくり（市社協が地区で実施している相談の場）はいい取り組みだと思う。ここは残してもよいのでは。

《地域防災》

- ・防災など、これからは小さい単位の地域の強化が必要。
- ・町内会に入らない場合のリスク面（災害時など）を市民に周知した方がよいのでは。（再掲）
- ・（個別避難計画）開業医との連携を考えてみては。専門職が作成する分は項目が多く負担では。市街地と新市で計画内容を変えてみては。
- ・災害を身近に考えられていない。危険度（ハザード）に応じて優先的に進めたらどうか。
- ・支え愛マップなど、地域防災についてなかなか地域だけで考えられない。福祉との連携など、ある程度専門的な知識を持つ人のサポートが必要。
- ・（支え愛マップ）作成の実績よりも話し合いの実績にしては。

《企業との連携》

- ・地域への出前授業などの活動を民間企業と一緒にやった方が効果的だと思う。
- ・地域の中だけで見るのではなく、プラットフォームに企業を巻き込む必要がある。
- ・認知症の方などが社会で活躍できる場を、地域の商店や企業、法人が提供することが必要だと思う。

《ICT の活用》

- ・相談の場に行けるかどうか。SNS など ICT を活用する手もある。
- ・働きながらも LINE などを利用して意見交換をしている。ICT 技術の活用がこれからは必要だと思う。
- ・（スーパーアプリ実証実験）タブレットを高齢者に配るだけでなく支援する人とセットでお願いしたい。